

# 江戸城関係絵図解題②

高橋 喜子

## はじめに

本稿は、当館所蔵の資料のうち、内閣文庫に由来する資料の中から、江戸城に関する絵図について、書誌情報及び内容を解題として紹介するもので、『北の丸』第五二号に掲載した拙稿「江戸城関係絵図解題①」に続くものである。本稿では、多聞櫓文書の中の江戸城関係絵図を紹介する。

前号で紹介した多聞櫓文書以外の江戸城関係絵図は、はじめから絵図のみの状態で存在している資料がほとんどであった。一方、今回取り上げる多聞櫓文書の中の江戸城関係絵図は、何らかの文書とともに作成されたと推測されるものの、現在は絵図のみの状態で保存されている資料が数多くみられる。そのため、絵図に関連する文書についても可能な範囲で調査を行った。結果、「御留守居部屋絵図」(請求番号 多〇四三二一八)のように、関係文書と紐づけることができた絵図も存在するが、そうした資料は稀であり、ほとんどの場合、文書と絵図の関係が不明な状態で、関連性を証明することは容易ではなかった。それゆえ、多聞櫓文書の中に絵図と関連する可能性のある文書がみられた場合にも、絵図との関係を明確に証明できない限り、解題において言及することは避けた。多聞櫓文書に残された個々の絵図と文書がどのような関係にあるのか、詳細な検討は今後の課題である。

調査対象資料は、当館デジタルアーカイブ(DA)を用い、資料群を「多聞櫓」に限定した上で、「絵図」、「図」等のキーワードで検索し、検索結果から対象資料を抽出した。資料一件につき複数点の資料がある場合、個別番号が付されている資料はそれに従い、個別番号が付されていない資料は①、②等、便宜上番号を振って区別し、書誌情報を記した。また、資料において旧字体ないし異体字で表記されている場合、固有名詞等を除き、基本的に新字体に直して表記した。主な参考文献は文末にまとめて記載した。なお、「二九」「紅葉山御宮図」は多聞櫓文書ではないが、本稿において多聞櫓文書中の紅葉山御霊屋関係資料を江戸城関係絵図として取り上げたので、参考として解題を記した。

- 〔一〕不明絵図類一括 「請求番号 多〇一一四二九」  
本資料は、五点の資料が一括されているため、一点ごとの情報を以下に記す。なお、目録上では一点ごとの区別はないが、ここでは便宜的に①、⑤と番号を振った。

①

【書誌】

- 〔外題〕なし
- 〔内題〕なし
- 〔裏書〕なし
- 〔形態〕一枚物
- 〔数量〕一枚
- 〔表紙〕なし
- 〔料紙〕楮紙
- 〔サイズ〕四五・五×三二・五糎
- 〔年代記載〕なし
- 〔縮尺記載〕なし
- 〔印記〕なし
- 〔収納容器〕なし
- 〔旧蔵者〕多聞櫓
- 〔備考〕裏打あり

【解題】  
霊廟の絵図。紅葉山の御宮（徳川家康の霊廟、東照宮）か。役職名を記した付箋が貼られている。また、付箋が剝がれたような跡が残されている。

②

- 【書誌】
- 〔外題〕なし
- 〔内題〕なし
- 〔裏書〕なし
- 〔形態〕一枚物

- 〔数量〕一枚
- 〔表紙〕なし
- 〔料紙〕楮紙
- 〔サイズ〕六〇・〇×四一・〇糎
- 〔年代記載〕なし
- 〔縮尺記載〕なし
- 〔印記〕なし
- 〔収納容器〕なし
- 〔旧蔵者〕多聞櫓
- 〔備考〕虫損部修復跡あり

- 【凡例】
- 〔赤線〕此色はつす
- 〔黄線〕此色御簾

【解題】  
元治元年（一八六四）に再建された江戸城の西丸仮御殿の絵図とみられる。雁之間に「寺院」とあり、役職名等が書き込まれていることから、儀式ないし儀礼の際の絵図と考えられる。

③

- 【書誌】
- 〔外題〕なし
- 〔内題〕なし
- 〔裏書〕なし

〔形態〕一枚物

〔数量〕一枚

〔表紙〕ない

〔料紙〕楮紙

〔サイズ〕二六・八×三五・八糎

〔年代記載〕なし

〔縮尺記載〕なし

〔印記〕なし

〔収納容器〕なし

〔旧蔵者〕多聞櫓

〔備考〕裏打あり

【解題】

「御作事方小屋場場所」周辺の絵図。地所や往来の範囲や長さが記されている。いずれの場所の絵図であるかは不明。

④

【書誌】

〔外題〕なし

〔内題〕なし

〔裏書〕なし

〔形態〕一枚物

〔数量〕一枚

〔表紙〕なし

〔料紙〕楮紙

〔サイズ〕四三・四×三一・六糎

〔年代記載〕なし

〔縮尺記載〕なし

〔印記〕なし

〔収納容器〕なし

〔旧蔵者〕多聞櫓

〔備考〕虫損部修復跡あり

【解題】

増上寺の西、飯倉町三〜五丁目および芝永井町代地（現在の港区麻布台三丁目、東麻布一〜二丁目、芝公園四丁目）周辺の絵図。飯倉町三〜五丁目、芝永井町代地の部分が赤線で囲まれている。真乗院構および通元院構の敷地の境界に設けられた柵には、「柵矢来並植込共焼失」とある。なお、文化八年（一八一二）二月十一日、このあたりは火事に見舞われている。

⑤

【書誌】

〔外題〕なし

〔内題〕なし

〔裏書〕なし

〔形態〕綴

〔数量〕一点

〔表紙〕なし

〔料紙〕楮紙

〔サイズ〕二八・五×三九・五糎

〔年代記載〕なし

〔縮尺記載〕なし

〔印記〕なし

〔収納容器〕なし

〔旧蔵者〕多聞櫓

〔備考〕裏打あり

【解題】

六枚の絵図がこよりで一括され、一綴りになっている。小屋等の図面がまとまっている。六枚のうち四枚には人名（北村主水、太田忠三郎、須田三十郎、大橋錦之助）が記されており、いずれも元治元年（一八六四）～慶応二年（一八六六）にかけて小納戸を務めた人物である（大橋錦之助は慶応元年～同二年に小納戸を務める）。

〔二〕二丸御広敷御門前乗物置所脇角矢来絵図

〔請求番号〕多〇一三九五〇

【書誌】

〔外題〕なし

〔内題〕なし

〔裏書〕なし

〔形態〕一枚物

〔数量〕一枚

〔表紙〕なし

〔料紙〕楮紙

〔サイズ〕二七・八×四〇・〇糎

〔年代記載〕なし

〔縮尺記載〕なし

〔印記〕なし

〔収納容器〕袋（糊はがれ、虫損あり） 楮紙 一四・三×七・二糎

〔二丸御広敷御門前乗物置所脇角矢来絵図〕（中央直書墨書）

〔旧蔵者〕多聞櫓

〔備考〕虫損甚大、付箋剥離「第六号」

【解題】

二丸の奥につながる広敷門の門前の乗物置所付近の絵図。乗物置所の場所と範囲が示されている。幕末頃とみられるが、正確な年代は不明。

〔三〕西丸大奥向御普請御上棟御新納御規式席並餅時櫓共絵図面

〔請求番号〕多〇二五〇二三

【書誌】

〔外題〕なし

〔内題〕①「西丸大奥向御普請御上棟御新納御規式席絵図」

②「餅時櫓共絵図面」

〔裏書〕なし

〔形態〕一枚物

〔数量〕二通（このほかに袋および紙片二点（備考③、④）あり）

〔表紙〕なし

〔料紙〕楮紙

〔サイズ〕①二七・五×三九・五糎 ②二七・五×三九・〇糎

〔年代記載〕なし

〔縮尺記載〕なし

〔印記〕なし

〔収納容器〕袋（糊はがれあり）楮紙 一四・三×七・〇糎（全体一四・

三×一四・五糎） 「西丸大奥向御普請御上棟御新納御規式席並餅

蒔櫓共絵図面 式通」（中央直書墨書）

〔旧蔵者〕多聞櫓

〔備考〕③紙片 楮紙 九・五×一二・八糎 「御棟棚」の図

④紙片 楮紙 二・〇×三・五糎

「若年寄衆」と「惣奉行衆」とある。

#### 【解題】

江戸城西丸大奥の建築儀礼に関する資料。江戸城西丸は、近世後期から幕末にかけて、天保一〇年（一八三九）、嘉永五年（一八五二）、元治元年（一八六四）と、三度にわたり再建されており、そのいずれかの再建時の資料であろう。①「西丸大奥向御普請御上棟御新納御規式席絵図」をみると、御対面所上段及び新座敷付近に祭壇が描かれている。備考に記した③紙片は、①の新座敷付近に設置された祭壇の拡大図とみられる。④紙片は、①から剥がれ落ちたものとみられるが、どの場所に添付されていたかは不明。②「餅蒔櫓共絵図面」は、餅蒔櫓付近の図。

〔四〕文久二戊年七月七日田安様御扣所俄御膳建間江御扱絵図

〔請求番号〕多〇三〇六〇三

#### 【書誌】

〔外題〕なし

〔内題〕なし

〔裏書〕文久二戊年七月七日田安様御扣所俄御膳建間江御扱絵図御小道

具役（端裏）

〔形態〕一枚物

〔数量〕一通

〔表紙〕なし

〔料紙〕楮紙

〔サイズ〕二七・八×三九・六糎

〔年代記載〕なし

〔縮尺記載〕なし

〔印記〕なし

〔収納容器〕なし

〔旧蔵者〕多聞櫓

#### 【解題】

江戸城本丸の奥、御座之間の東にある「御膳建」付近の絵図。裏書の記載によれば、文久二年（一八六二）七月七日、田安様（田安慶頼）の御扣所が御膳建間に設けられることとなった際に作成された絵図とみられる。田安慶頼は、安政五年（一八五八）八月、一三代将軍家定の遺言により、一四代将軍家茂の後見職を務め、文久二年五月にそれを辞しているが、以後も時折り登城して政事向の相談にあずかっていたようである。

〔五〕吹上御構辺角矢来絵図 〔請求番号 多〇四〇一〇〇〕

【書誌】

- 〔外題〕なし
- 〔内題〕なし
- 〔裏書〕なし
- 〔形態〕一枚物
- 〔数量〕一枚
- 〔表紙〕なし
- 〔料紙〕楮紙
- 〔サイズ〕二七・〇×三九・〇糎
- 〔年代記載〕なし
- 〔縮尺記載〕なし
- 〔印記〕なし
- 〔収納容器〕なし
- 〔旧蔵者〕多聞櫓

【解題】

吹上周辺のうち、半蔵門から南側の柵が描かれた絵図。「半蔵御門」の南に「角矢来五間」とある。

〔六〕十一月十四日御白書院より大広間江出御之絵図

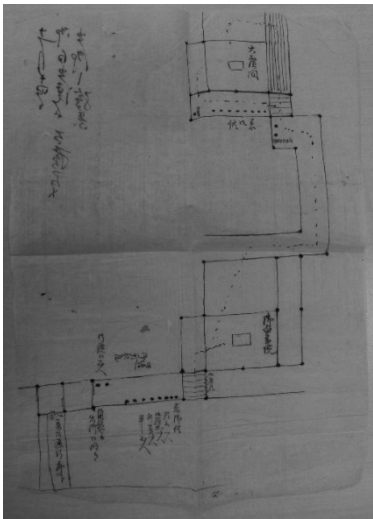
〔請求番号 多〇四二六七七〕

【書誌】

- 〔外題〕なし
- 〔内題〕なし
- 〔裏書〕「十一月十四日御白書院より大広間江出御之絵図」（端裏）
- 〔形態〕一枚物
- 〔数量〕一枚
- 〔表紙〕なし
- 〔料紙〕楮紙
- 〔サイズ〕二四・二×三三・五糎
- 〔年代記載〕なし
- 〔縮尺記載〕なし
- 〔印記〕なし
- 〔収納容器〕なし
- 〔旧蔵者〕多聞櫓

【解題】

四 将軍が白書院から大広間へ出御する際の動線等を示した絵図。「十一月十四」とあるが、年代は不明。御供の人数や控える位置等も記されている。



「十一月十四日御白書院より大広間江出御之絵図」  
(多 042677) 全体図

〔七〕 山里御門外御土蔵中仕切絵図 「請求番号 多〇四二六八四」

【書誌】

〔外題〕 なし

〔内題〕 なし

〔裏書〕 「山里御門外御土蔵中仕切絵図」（題簽）（端裏）

〔形態〕 一枚物

〔数量〕 一枚

〔表紙〕 なし

〔料紙〕 楮紙

〔サイズ〕 二七・五×三七・〇糎

〔年代記載〕 なし

〔縮尺記載〕 なし

〔印記〕 なし

〔収納容器〕 なし

〔旧蔵者〕 多聞櫓

【解題】

山下門外にある土蔵の内部構造を示した絵図。一階は土蔵の途中で「御作事方持」と「御納戸方持」に仕切られており、それぞれ入口が別に設けられている。また、二階はすべて「御納戸方持」となっている。

〔八〕 西丸御普請御用御小屋絵図 「請求番号 多〇四二九三五」

【書誌】

〔外題〕 なし

〔内題〕 なし

〔裏書〕 なし

〔形態〕 一枚物

〔数量〕 一枚

〔表紙〕 なし

〔料紙〕 楮紙

〔サイズ〕 三〇・〇×四二・九糎

〔年代記載〕 なし

〔縮尺記載〕 なし

〔印記〕 なし

〔収納容器〕 なし

〔旧蔵者〕 多聞櫓

【解題】

西丸御普請御用御小屋場付近の絵図。「坂下御門」「大御番所」「見張番所」「先例番主御目見場所」等の記載あり。天保一〇年（一八三九）、嘉永五年（一八五二）、元治元年（一八六四）、いずれかの西丸の再建に関わる絵図とみられる。

〔九〕 山里奥締之節御幕附絵図 「請求番号 多〇四二九三六」

【書誌】

〔外題〕なし

〔内題〕なし

〔裏書〕「山里奥締之節御幕附絵図」（端裏）

〔形態〕一枚物

〔数量〕一枚

〔表紙〕なし

〔料紙〕楮紙

〔サイズ〕一三三・七×一〇〇・七糎

〔年代記載〕なし

〔縮尺記載〕なし

〔印記〕なし

〔収納容器〕なし

〔旧蔵者〕多聞櫓

【解題】

江戸城西丸の西側、新口門と西丸山里門の間の図とみられる。「弓幕」「幕張」等の記載があることから、何かの儀礼や行事の際の絵図か。

〔一〇〕紅葉山御宮御法会席図 〔請求番号 多〇四二九五七〕

【書誌】

〔外題〕なし

〔内題〕なし

〔裏書〕「紅葉山御宮御法会席図」（題簽）（端裏）

〔形態〕一枚物

〔数量〕一枚

〔表紙〕なし

〔料紙〕楮紙

〔サイズ〕三三一・五×四四・一糎

〔年代記載〕なし

〔縮尺記載〕なし

〔印記〕なし

〔収納容器〕なし

〔旧蔵者〕多聞櫓

【解題】

紅葉山御宮における法会の際の席図。唐門から石之間までが描かれている。導師、僧衆、寺社奉行、目付、掃除頭、火之番、伶人等、僧侶や役人の席の配置が示されている。

〔一一〕紅葉山昭徳院様正遷座且御同宮御供養二付御取建物絵図

〔請求番号 多〇四二九五八〕

【書誌】

〔外題〕なし

〔内題〕「紅葉山昭徳院様正遷座且御同宮御供養二付御取建物絵図」（題簽）

〔裏書〕なし

〔形態〕一枚物



【数量】一枚  
【表紙】なし  
【料紙】楮紙  
【サイズ】三〇・九×四二・五糎  
【年代記載】なし  
【縮尺記載】なし  
【印記】なし  
【収納容器】なし  
【旧蔵者】多聞櫓  
【備考】付箋あり

【解題】

江戸城の紅葉山における、昭徳院（一四代將軍徳川家茂）遷座および供養の際の御取建物の絵図。紅葉山の昭徳院の御霊屋付近の図とみられる。御玄關門から御取建物内に入り、広間、使者之間、客之間を経て三之間に至るまで、赤色の点線で、動線が引かれている。また、二之間には、付箋で「上使」「方丈」とあり、両者の席の配置が示されている。

〔二二〕田安御門辺御堀埋之場所絵図 [請求番号 多〇四二九六一]

【書誌】

【外題】なし  
【内題】なし  
【裏書】「御作事奉行」（端裏）

【形態】一枚物  
【数量】一枚  
【表紙】なし  
【料紙】楮紙  
【サイズ】二七・四×九六・〇糎  
【年代記載】なし  
【縮尺記載】なし  
【印記】なし  
【収納容器】なし  
【旧蔵者】多聞櫓  
【備考】付箋あり

【解題】

田安門付近の堀で、土砂が堆積しており、浚渫が必要な箇所を示した絵図。全部で三ヶ所あり、その部分は赤色の線で囲まれ、付箋が貼られている。

〔二三〕老番町通並牛込御門外より市谷御門外迄御堀埋之場所絵図

[請求番号 多〇四二九六二]

【書誌】

【外題】なし  
【内題】なし  
【裏書】「御作事奉行」（端裏）  
【形態】一枚物

【数量】一枚

【表紙】なし

【料紙】楮紙

【サイズ】二七・四×九四・〇糎

【年代記載】なし

【縮尺記載】なし

【印記】なし

【収納容器】袋（糊剥がれあり） 楮紙 一四・三×九・〇糎

（全体一四・三×一八・二糎）

「老番町通並牛込御門外より市谷御門外迄御掘埋之場所絵図」

（中央直書墨書、「御作事奉行」（左下直書墨書）

【旧蔵者】多聞櫓

【備考】付箋あり

【解題】

牛込御門外から市谷御門外までの堀で、土砂が堆積しており、浚渫が必要な箇所を示した絵図。付箋に「朱引之通出洲二相成草生茂（リ）有之候」（四ヶ所）とある。

〔二四〕御膳所辺絵図 「請求番号 多〇四二九六四」

【書誌】

【外題】なし

【内題】なし

【裏書】なし

【形態】一枚物

【数量】一枚

【表紙】なし

【料紙】楮紙

【サイズ】二五・五×三八・三糎

【年代記載】なし

【縮尺記載】なし

【印記】なし

【収納容器】なし

【旧蔵者】多聞櫓

【備考】泥付着、付箋あり

【解題】

二丸の御膳所付近の絵図。「御膳所」のほか、「二丸長屋」「大工小屋」「大番所」「御奉行部屋」等の記載がある。元治元年（一八六四）の二丸再建時ないし慶応元年（一八六五）の修理時の絵図か。

〔二五〕正月十一日絵図 「請求番号 多〇四二九六六」

【書誌】

【外題】なし

【内題】なし

【裏書】「正月十一日絵図」（端裏）

【形態】 一枚物

【数量】 一枚

【表紙】 なし

【料紙】 楮紙

【サイズ】 四二・五×五九・五種

【年代記載】 なし

【縮尺記載】 なし

【印記】 なし

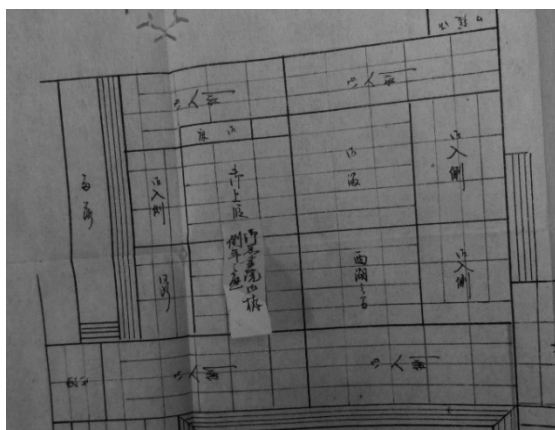
【収納容器】 なし

【旧蔵者】 多聞櫓

【備考】 付箋あり、継目剥離

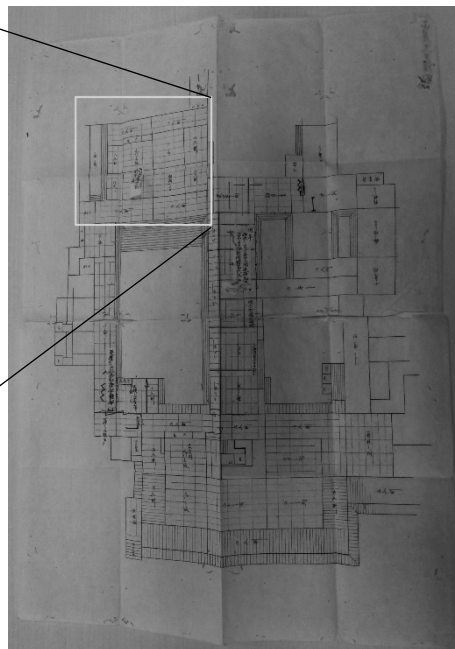
### 【解題】

元治元年（一八六四）に再建された江戸城の西丸仮御殿の絵図。本図は大広間と黒書院がみられ、白書院が存在しないことから、元治元年再建の西丸仮御殿であると判断できる。正月十一日は、江戸城において具足祝が執り行われることから、その際の絵図面とみられる。各間には名称が記されており、大広間から黒書院にかけての主要な間には、畳目を示すと思われる線が引かれている。また、補足情報が付箋に記されている。例えば、黒書院上段には、「御黒書院御拵例年之通」と記した付箋があり、正月十一日に黒書院上段に飾る具足等の「御拵」が例年の通りであることが示されている。



「正月十一日絵図」(多 042966)

拡大図



「正月十一日絵図」(多 042966)

全体図

〔二六〕御宮殿并尊牌御座順絵図 [請求番号 多〇四二九八四]

【書誌】

〔外題〕なし

〔内題〕なし

〔裏書〕「御宮殿並尊牌御座順絵図」(題簽) (端裏)

〔形態〕一枚物

〔数量〕一枚

〔表紙〕なし

〔料紙〕楮紙

〔サイズ〕三一・四×四二・八糎

〔年代記載〕なし

〔縮尺記載〕なし

〔印記〕なし

〔収納容器〕なし

〔旧蔵者〕多聞櫓

【解題】

江戸城の紅葉山の御霊屋(文昭院(六代将軍徳川家宣、有章院(七代家継)、惇信院(九代家重、慎徳院(二二代家慶)、昭徳院(二四代家茂)の本殿の図。各御霊屋の位置に將軍の院号が記されている。

〔二七〕紅葉山昭徳院様正遷座且御同宮御供養二付御取建物絵図

[請求番号 多〇四二九八六]

【書誌】

〔外題〕なし

〔内題〕なし

〔裏書〕①「紅葉山昭徳院様正遷座且御同宮御供養二付御取建物絵図」

(題簽(端裏)、②なし)

〔形態〕一枚物

〔数量〕二枚

〔表紙〕なし

〔料紙〕楮紙

〔サイズ〕①三〇・七×四二・五糎、②三二・五×四三・一糎

〔年代記載〕なし

〔縮尺記載〕なし

〔印記〕なし

〔収納容器〕なし

〔旧蔵者〕多聞櫓

【解題】

①台徳院(二二代将軍徳川秀忠)の御霊屋の図とみられる。四足門から、雲花門、拜殿、本殿までの領域が描かれている。

②台徳院の御霊屋の図。雲花門から、拜殿、本殿を描く。本殿には、「台徳院様」の横に「昭徳院様仮御須弥壇」が設置されている。昭徳院(二四代家茂)の御霊屋は、文昭院(六代家宣)らの御霊屋で合祀されていることから、正式に安置する以前、一時的に台徳院の御霊屋で昭徳院を祀っていたとみられる。

〔二八〕御幕多門之絵図 「請求番号 多〇四二一九八七」

【書誌】

〔外題〕なし

〔内題〕なし

〔裏書〕「御幕御多門之絵図」（端裏）

〔形態〕一枚物

〔数量〕一枚

〔表紙〕なし

〔料紙〕楮紙

〔サイズ〕三一・六×四〇・八糎

〔年代記載〕なし

〔縮尺記載〕なし

〔印記〕なし

〔収納容器〕なし

〔旧蔵者〕多聞櫓

【解題】

江戸城の本丸表の東にある中之門の東側、百人組番所の周辺とその南側の多門（多聞）を描いた絵図。多門には、「御幕入置候御多門」と記されていることから、「御幕」を保管していた多門の図と考えられる。なお、江戸幕府の組織には「御幕奉行」と呼ばれる、幕を管理することを職務とする役職がある。

〔二九〕二丸当番所仮詰所絵図 「請求番号 多〇四二九九六」

【書誌】

〔外題〕なし

〔内題〕なし

〔裏書〕「二丸当番所仮詰所絵図」（題簽）（端裏）

〔形態〕一枚物

〔数量〕一枚

〔表紙〕なし

〔料紙〕楮紙

〔サイズ〕二七・七×三九・四糎

〔年代記載〕なし

〔縮尺記載〕なし

〔印記〕なし

〔収納容器〕袋 楮紙 一四・三×七・〇糎 二丸当番所仮詰所絵図

〔旧蔵者〕多聞櫓

【解題】

二丸の玄関から西中之口付近が描かれている。赤字で記した掛紙には「仮当番所」とある。二丸の工事過程で作成された図とみられる。元治元年（一八六四）の二丸再建時ないし慶応元年（一八六五）の修理時の絵図か。

〔二〇〕 町年寄外拝謁ニ付雁之間座順絵図

〔請求番号 多〇四三二〇一〕

【書誌】

- 〔外題〕なし
- 〔内題〕なし
- 〔裏書〕なし
- 〔形態〕一枚物
- 〔数量〕一枚
- 〔表紙〕なし
- 〔料紙〕楮紙
- 〔サイズ〕二七・四×四〇・五糎
- 〔年代記載〕なし
- 〔縮尺記載〕なし
- 〔印記〕なし
- 〔収納容器〕なし
- 〔旧蔵者〕多聞櫓

【解題】 江戸城において町年寄らが拝謁する際の座順等を示した絵図。「芙蓉之間」と「雁之間」周辺が描かれており、町年寄、銀座年寄、大黒作右衛門（銀座の銀改役）らは「雁之間」に伺候したことがわかる。また、両間の配置から、元治元年（一八六四）に再建された江戸城の西丸仮御殿と判断できる。

〔二一〕 御留守居部屋絵図

〔請求番号 多〇四三二二八〕

【書誌】

- 〔外題〕なし
- 〔内題〕なし
- 〔裏書〕「御留守居部屋」（題箋）（端裏）
- 〔形態〕一枚物
- 〔数量〕一枚
- 〔表紙〕なし
- 〔料紙〕楮紙
- 〔サイズ〕一九・二×二七・七糎
- 〔年代記載〕なし
- 〔縮尺記載〕なし
- 〔印記〕なし
- 〔収納容器〕なし
- 〔旧蔵者〕多聞櫓

【解題】 留守居部屋の絵図。改装部分が掛紙になっている。二丸御留守居部屋二階上リ口取付直両便所等之儀御定金之内を以御入用少ニ可取計旨（多七〇二七六九）（以下、資料Aと表記）、及び二丸御留守居部屋便所并二階階子取付直等之儀ニ付申上候」（多七〇二七七三）（以下、資料Bと表記）が関連資料とみられることから、二丸留守居部屋の絵図と考えられる。また、資料Aには「丑閏五月」、資料Bには「閏五月」とあり、両資料に記された差出人の情報をも照らし合わせると、資料A・Bおよび本図は、慶応元年

(二八六五) 閏五月に作成された資料であることが判明する。資料A・Bから、二丸留守居部屋の二階上り口の取り付け直しと便所新設のため、部屋の一部を改装することを申請していることがわかる。資料Aは本件に対する勘定方からの意見書、資料Bは小笠原刑部(目付、勝手掛)からの意見書である。資料Bには、「書面并別紙絵図面共一覽勘弁仕候処・・・」、「掛ヶ紙之通御模様替相成候ハ」と記されていることから、本図は資料Bと直接的に関係する絵図とみられる。

〔二二〕 汐見渡御櫓留守居部屋辺絵図 「請求番号 多〇四三二一九」

【書誌】

- 〔外題〕 なし
- 〔内題〕 なし
- 〔裏書〕 なし
- 〔形態〕 一枚物
- 〔数量〕 一枚
- 〔表紙〕 なし
- 〔料紙〕 楮紙
- 〔サイズ〕 二七・八×七〇・四糎
- 〔年代記載〕 なし
- 〔縮尺記載〕 なし
- 〔印記〕 なし
- 〔収納容器〕 なし
- 〔旧蔵者〕 多聞櫓

【解題】

江戸城本丸と二丸の間の汐見渡櫓周辺の図。「御留守居部屋」、「御留守居番部屋」、「汐見同心御番所」、「汐見与力御番所」、「奥御掃除之物部屋」等がある。

〔二三〕 江城本丸細見図 「請求番号 多一〇〇二八二」

【書誌】

- 〔外題〕 なし
- 〔内題〕 なし
- 〔裏書〕 「江城本丸細見絵図」(端裏)
- 〔形態〕 一枚物
- 〔数量〕 一鋪
- 〔表紙〕 なし
- 〔料紙〕 楮紙
- 〔サイズ〕 八〇・五×七七・五糎
- 〔年代記載〕 「文久元辛酉歳秋八月五日書写」
- 〔縮尺記載〕 なし
- 〔印記〕 なし
- 〔収納容器〕 なし
- 〔旧蔵者〕 多聞櫓
- 〔備考〕 虫損部修復跡あり

【書き入れ①】

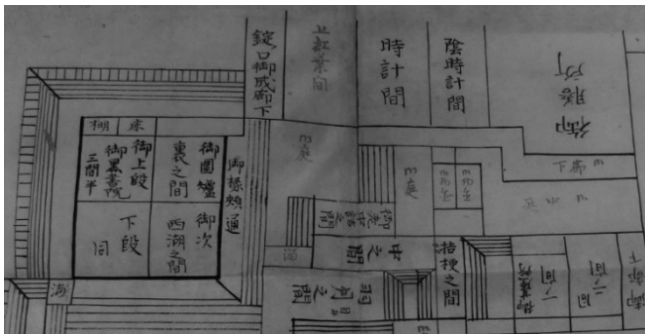
文久元辛酉歳秋八月五日書写  
原図松廼屋蔵 田鶴廼屋主人

【書き入れ②】

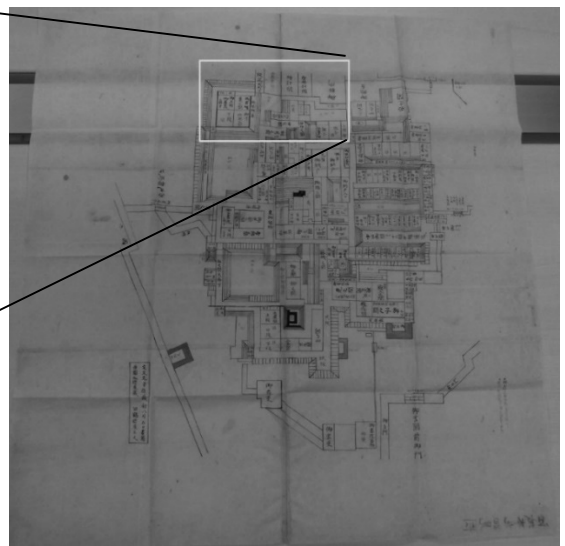
- 獅子間 二八郎為朝ノ矢根の御槍有之
- 遠侍 大武台 鎌倉以来之古名

【解題】

江戸城本丸御殿の表向の絵図。「時計間」の西側には御用部屋があるはずだが、本図では朱筆で「上紅葉間」と記されている。また、中之口の下部屋に「林大学頭 同百助」とある。百助は林信智(？〜一七四三)、信有(？〜一七八五)、信彰(？〜一七九六)のいずれかであることから、江戸時代中後期頃の御殿の様子を描いた絵図とみられる。



「江城本丸細見図」(多 100282)  
拡大図



「江城本丸細見図」(多 100282)  
全体図



〔二四〕御釘隠御場所絵図 [請求番号 多七〇〇五二四]

頃か。

【書誌】

〔外題〕なし

〔内題〕なし

〔裏書〕なし

〔形態〕一枚物

〔数量〕一枚

〔表紙〕なし

〔料紙〕楮紙

〔サイズ〕四二・三×五三・〇糎

〔年代記載〕なし

〔縮尺記載〕なし

〔印記〕なし

〔収納容器〕なし

〔旧蔵者〕多聞櫓

【色凡例】

〔黄色〕此印減金御釘隠御場〔所〕

〔水色〕此印煮黒目御釘隠御場

【解題】

江戸城二丸の表と奥の図。釘隠の種類と場所を示したもの。「奥御右筆所」、「御目付部屋」、「御側衆」、「御用部屋」等があり、表の役人の部屋が充実している。年代不明。多聞櫓文書であることから、江戸時代後期から幕末

〔二五〕二丸大奥御化粧之間起絵図（袋のみ）

[請求番号 多七〇三六一四]

【書誌】

〔外題〕二丸大奥御化粧之間起絵図〔中央直書墨書〕

〔内題〕なし

〔裏書〕なし

〔形態〕一枚物

〔数量〕一点

〔表紙〕なし

〔料紙〕楮紙

〔サイズ〕二五・三×一八・一糎（全体二五・五×三六・六糎）

〔年代記載〕なし

〔縮尺記載〕なし

〔印記〕なし

〔収納容器〕なし

〔旧蔵者〕多聞櫓

〔備考〕袋のみ。継目剥離。

【解題】

二丸大奥御化粧之間起絵図を収納していたみられる袋。内容物はなく、袋のみ。

〔二六〕和宮入城ノ図・具視有文城中ニ誓書ヲ取ルノ図 右「巻詞書草案」

〔請求番号〕 多七〇四八〇七

【書誌】

〔外題〕「和宮入城ノ図 具視有文城中ニ誓書ヲ取ルノ図」

右「巻詞書草案」（中央直書墨書）

〔内題〕なし

〔裏書〕なし

〔形態〕一枚物

〔数量〕一点

〔表紙〕なし

〔料紙〕楮紙

〔サイズ〕三四・八×二四・〇糎（全体五一・五×六五・五糎）

〔年代記載〕なし

〔縮尺記載〕なし

〔印記〕なし

〔収納容器〕なし

〔旧蔵者〕多聞櫓

〔備考〕包紙のみ。

〔二七〕和宮入城ノ図・具視有文城中ニ誓書ヲ取ルノ図

右「巻詞書漢文草案」〔請求番号〕 多七〇四八一五

【書誌】

〔外題〕「和宮入城ノ図 具視有文城中ニ誓書ヲ取ルノ図」

右「巻詞書漢文草案」（中央直書墨書）

〔内題〕なし

〔裏書〕なし

〔形態〕一枚物

〔数量〕一点

〔表紙〕なし

〔料紙〕楮紙

〔サイズ〕三六・五×二三・二糎（全体五一・〇×六六・〇糎）

〔年代記載〕なし

〔縮尺記載〕なし

〔印記〕なし

〔収納容器〕なし

〔旧蔵者〕多聞櫓

〔備考〕包紙のみ。

【解題】

文久元年（一八六一）、和宮は一四代将軍徳川家茂との婚姻のため、京都から江戸へ向かう。その際、岩倉具視と千種有文も随行し、岩倉らは将軍家茂自筆の誓書を獲得した（『岩倉公実記』）。本包紙は、その一件に関する絵図が収納されていた包紙とみられる。

【解題】

包紙のみ。内容物はなし。〔二六〕「和宮入城ノ図・具視有文城中ニ誓書ヲ取ルノ図 右「巻詞書草案」（多七〇四八〇七）の関連資料。

〔二八〕二丸絵図 「請求番号 多七〇五二二八」

【書誌】

〔外題〕二丸絵図（中央直書墨書）

〔内題〕なし

〔裏書〕なし

〔形態〕一枚物

〔数量〕一点

〔表紙〕なし

〔料紙〕楮紙

〔サイズ〕四四・一×六三・五糎

〔年代記載〕なし

〔縮尺記載〕なし

〔印記〕なし

〔収納容器〕なし

〔旧蔵者〕多聞櫓

〔備考〕包紙のみ。

【解題】

「二丸絵図」を収納していた包紙とみられる。内容物はなく、包紙のみの状態。

〔二九〕紅葉山御宮図 「請求番号 二六二一〇〇九六」

本資料は四軸あり、一〜四まで個別に番号が振られている。番号に基づき、①〜④として解題を記載する。

【書誌】

〔外題〕なし

〔内題〕①なし

②なし

③ 「紅葉山御宮御修復積之覚」

④ 「紅葉山御宮御修復諸色入用」

〔裏書〕「佩」（端裏、題簽）、「第百七十六函」（端裏、題簽）、

「共四」（端裏、直書）（四点とも）

〔形態〕巻物

〔数量〕四軸

〔表紙〕なし

〔料紙〕①間似合紙、②間似合紙、③楮紙、④楮紙

〔サイズ〕①六四・〇×二四〇・二糎

②七〇・〇×一三〇・二糎

③三一・八×一三四・五糎

④三四・〇×一四一・五糎

〔年代記載〕なし

〔縮尺記載〕なし

〔印記〕①なし、②なし、③ 「日本政府図書」（貼付）、④なし

〔収納容器〕箱「紅葉山御宮図」

縦七六・三×横一三・五×高さ一一・五糎

②筒(天地あき)「紅葉山御宮図」二枚 御修復積之覚一枚

諸色入用一枚 合計四枚 長さ七四・二糎

〔旧蔵者〕不明

〔旧番号〕和書 三二五七五号

〔備考〕付箋あり、②裏打

【解題】

紅葉山の御宮(東照宮)の図が二点①、②、および関連文書が二点③、④、計四点が収められている。いずれも年代不明。①は御宮の「向拝」、「御拝殿」、「御本社」を描いた無彩色の絵図。②は拝殿の図で、彩色が施されている。③と④は御宮の修復の際の文書とみられる。③は修復箇所とその方法について、④は修復箇所とその費用について記されている。費用は銀建てで示されるが、付箋には金に換算した費用が記載されている。収納容器である箱は、後に作られたものとみられる。②を収めている筒が元の収納容器であろう。

〔主な参考文献〕

村井益男責任編集『日本名城集成 江戸城』小学館、一九八六年。

平井聖監修・伊東龍一著『城郭・侍屋敷古図集成 江戸城I(城郭)』至文堂、一九九二年。

小川恭一編著『寛政譜以降旗本家百科事典』東洋書林、一九九七～一九九八年。

深井雅海『図解・江戸城をよむ』原書房、二〇〇三年(第三刷)。

大石学編『江戸幕府大事典』吉川弘文館、二〇〇九年。

(調査員)